

暑い時、寒い時、エアコンに思わず感謝の生活をしています！

仕事が終わって家に帰り、普通にエアコンのリモコンを手にスイッチを入れています。ふと子供の頃を思うと（60代です）扇風機しかなかったことに思い当たり、いつからこんな便利な世の中になったんだろうと？？？少し調べてみました。

株式会社エコ・プラン 掲載の記事を参考にしてお話しします。

それによると1758年に、アメリカのベンジャミン・フランクリンとジョン・ハドリーが、蒸発熱を使って物体を急速に冷却する実験を行い、エーテルを使うと物体を氷点下まで冷却できることを発見したのが、「冷やす」実験の始まりのようです。

その後1800年代に製氷機が作られ、1902年に電気式のエアコンディショナーが発明されましたが、初期のものは漏れ出すと死亡事故に繋がる危険なアンモニア、クロロメタン、プロパンなどの有毒または可燃性のガスを使用していました。

その後1928年、ついに当時はすばらしい気体ができたと称賛されたフレオンという世界初のフロン類が発明されたのです。（後にこの冷媒は人間には安全ですが、大気のおゾン層にとっては有害だということがわかったのです）

日本では1952年（昭和27年）から「空気調整機」の名で量産され始めたらしいのですが……

私の記憶にはありません。最初は旅館などから設置され始めたということです。

1958年（昭和33年）に「ルームクーラー」と統一された呼び名が1965年（昭和40年）に

「ルームエアコン」となり、一般への普及が始まりました。



今はノンフロンや省エネタイプなどいろいろありますが、エネルギーを大量に使う事には変わりありません。会社でも経費の問題もあり省エネ対策に皆様も取り組んでいらっしゃると思いますが、より多くのエネルギーを使っている一般家庭も例外ではありません。熱中症対策をして、でも暑さを我慢するのではなく、いかに効率よく身体と会計への負担を小さくするかを考えて使う生活が求められるのかもしれません。

秋に一息ついたらすぐ、冬の暖房でも大忙しのエアコンです。コロナ対策、働き方改革も含めた新しい生活様式に、無理をしない省エネ対策も仲間入りさせてみませんか。